



**飛躍への挑戦！**  
**高知県産業振興計画**

**平成31年度安芸地域アクションプランの  
追加、削除、拡充等（予定項目）について**

**安 芸 地 域 本 部**

**平成31年2月14日（木）**



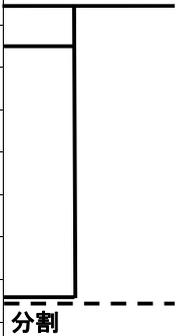
地域アクションプランの動向

H30年度 238 → H31年度 238

地 域	H30年度 (第3期ver.3)	H31年度 (第3期ver.4)				
	AP数 H30.9.14時点	追 加	削 除	統 合 分 割	小 計	AP数
安 芸	31	1	0	(2→1) ▲ 1	0	31
物部川	28	0	0	0	0	28
高知市	30	0	0	0	0	30
嶺 北	24	0	0	0	0	24
仁淀川	37	0	0	0	0	37
高 幡	41	1	▲ 1	0	0	41
幡 多	47	0	0	0	0	47
合 計	238	2	▲ 1	▲ 1	0	238

安芸地域アクションプラン項目（第3期計画ver.3（H30年度）と 第3期計画ver.4（

No.	平成30年度	室戸市	安芸市	東洋町	奈半利町	田野町	安田町	北川村	馬路村	芸西村
		9	6	7	6	6	6	5	5	4
1	ユズを中心とした中山間振興	●	●		●	●	●	●	●	
2	ポンカン加工品開発と後継者確保による地域振興			●						
3	やすだ資源を活かした6次産業化事業の推進						●			
4	白下糖の生産拡大と新商品の開発									●
5	土佐備長炭の生産・出荷・販売体制の強化	●		●						
6	林業加工品の販売の促進								●	
7	芸東地域の水産物の付加価値向上と販路拡大	●		●	●	●	●			
8	安芸市のシラス漁業者所得の向上		●							
9	海洋深層水による地域産業の推進	●								
10	キラメッセ室戸「楽市」を核とした地産地消・外商の拡大	●								
11	安芸本町商店街を中心とする地域の活性化		●							
12	海の駅東洋町を拠点とした地域振興			●						
13	有害鳥獣等を活用した商品開発と販路開拓			●						
14	地域食材を活用した奈半利町の特産品の開発及び販路拡大				●					
15	完全天日塩を活用した産業振興及び観光への活用					●				
16	道の駅「田野駅屋」の機能強化に向けた取組					●				
17	地場産品直販所「かっぱ市」による地域活性化									●
18	安芸地域の観光振興の推進	●	●	●	●	●	●	●	●	●
19	日本遺産を活用した中芸地域の活性化				●	●	●	●	●	
20	世界ジオパーク認証を活かした観光の振興	●								
21	「海の駅とろむ」を核とした交流人口の拡大	●								
22	岩崎弥太郎や地域食材等を活用した観光の推進		●							
23	東洋町における体験型・滞在型観光の推進			●						
24	藤村製絲を活用した観光振興				●					
25	北川村観光3施設の誘客強化による交流人口の拡大							●		
26	旧椎名小学校を活用した地域振興	●								
27	集落活動センター「かまん東川」を拠点とした魅力ある地域づくり		●							
28	安田中山地区の活性化プロジェクト						●			
29	北川村中部地区の活性化プロジェクト							●		
30	馬路村魚梁瀬地区の活性化プロジェクト								●	
31	集落活動センター「げいせい」を拠点とした”小さくてももっと元気で輝くむら”づくり									●



		室戸市	安芸市	東洋町	奈半利町	田野町	安田町	北川村	馬路村	芸西村	No.	平成31年度
		8	6	7	6	6	7	5	5	4		
		●	●		●	●	●	●	●		1	ユズを中心とした中山間振興
				●							2	ポンカンの加工品開発と後継者確保による地域振興
							●				3	やすだ資源を活かした6次産業化事業の推進
									●		4	白下糖の生産拡大と新商品の開発
		●		●							5	土佐備長炭の生産・出荷・販売体制の強化
									●		6	林業加工品の販売の促進
		●		●	●	●	●				7	芸東地域の水産物の付加価値向上と販路拡大
			●								8	安芸市のシラス漁業者所得の向上
		●									9	海洋深層水による地域産業の推進
		●									10	キラメッセ室戸「楽市」を核とした地産地消・外商の拡大
			●								11	安芸本町商店街を中心とする地域の活性化
				●							12	海の駅東洋町を拠点とした地域振興
				●							13	有害鳥獣等を活用した商品開発と販路開拓
					●						14	地域食材を活用した奈半利町の特産品の開発及び販路拡大
						●					15	完全天日塩を活用した産業振興及び観光への活用
						●					16	道の駅「田野駅屋」の機能強化に向けた取組
									●		17	地場産品直販所「かっぱ市」による地域活性化
		●	●	●	●	●	●	●	●	●	18	安芸地域の観光振興の推進
					●	●	●	●	●		19	日本遺産を活用した中芸地域の活性化
→	統合	●									20	室戸市の観光資源を活かした交流人口の拡大・地域振興
			●								21	岩崎弥太郎や地域食材等を活用した観光の推進
				●							22	東洋町における体験型・滞在型観光の推進
	拡充				●						23	奈半利町の観光施設の誘客強化による交流人口の拡大
	追加						●				24	安田川アユおどる清流キャンプ場の再整備による交流人口の拡大と地域の活性化
								●			25	北川村観光3施設の誘客強化による交流人口の拡大
→	-----	●									26	旧椎名小学校を活用した地域振興
			●								27	集落活動センター「かまん東川」を拠点とした魅力ある地域づくり
						●					28	安田中山地区の活性化プロジェクト
								●			29	北川村中部地区の活性化プロジェクト
									●		30	馬路村魚梁瀬地区の活性化プロジェクト
									●		31	集落活動センター「げいせい」を拠点とした”小さくてももっと元気で輝くむら”づくり

安芸地域アクションプランの追加・削除・拡充等（予定項目）

■追加

NO.	アクションプラン名	事業概要
1	安田川アユおどる清流キャンプ場の再整備による交流人口の拡大と地域の活性化 (安田町) 【実施主体】安田町	安田町の自然・体験型観光の拠点施設としてキャンプ場を再整備し、安田川をはじめとする地域資源を活用したアクティビティの強化や季節毎に特色あるイベントの開催、情報発信や施設の管理運営手法の見直しなどを行い、利用客数の大幅な増加を目指すほか、キャンプ場利用者への周辺施設への誘客や地域食材の利活用を推進し、交流人口の拡大と地域の活性化につなげる。

■削除 なし

■その他(拡充、統合、分割)

NO.	アクションプラン名	見直しする内容
1	No. 20 世界ジオパーク認証を活かした観光の振興（室戸市） 【実施主体】室戸市、室戸ジオパーク推進協議会、室戸市観光協会  No. 21 「海の駅とろむ」を核とした交流人口の拡大（室戸市） 【実施主体】NPO法人室戸ドルフィンプロジェクト、室戸黒潮協同組合、(一社)うみ路、室戸市	【統合・拡充】 世界認定を受けた室戸ジオパークを核とした観光振興に向け、主要観光施設（ジオパークセンター、むろと廃校水族館、ドルフィンセンター、ライダーズイン（H31 リニューアル予定）等）の連携を強化し、周遊型・滞在型観光への転換を図るとともに、各施設が一体となった広告宣伝や営業活動を強化していくため、プラン名を「室戸市の観光資源を活かした交流人口の拡大・地域振興」として統合し、事業主体にNPO法人日本ウミガメ協議会（むろと廃校水族館）とライダーズイン指定管理者を追加する。

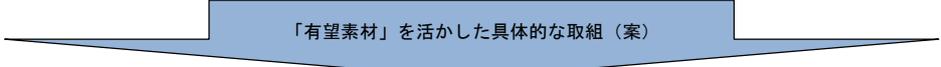
NO.	アクションプラン名	見直しする内容
2	<p>No. 26 旧椎名小学校を活用した地域振興 (室戸市)</p> <p>【実施主体】室戸市、地域住民団体(椎名常会)、椎名大敷組合、民間事業者</p>	<p>【分割・統合】</p> <p>室戸市内の主要観光施設の連携を強化し、周遊型・滞在型観光への転換を図るため、廃校水族館に関する取組を分割し、「室戸市の観光資源を活かした交流人口の拡大・地域振興」に統合する。</p> <p>なお、集落活動センターについては、経済活動強化に向けて、交流イベントの開催・イベントブラッシュアップ、販売活動充実に向けた施設利用方法等の検討及び事業主体に椎名集落活動センターたのしいな運営委員会を追加する。また、新たに指標及び目標として交流イベント開催数並びに集落活動センター利用者数を設定し、将来的に集活センターが地域全体のメインエンジンとなることを目指す。</p>
3	<p>No. 24 藤村製絲を活用した観光振興 (奈半利町)</p> <p>【実施主体】藤村製絲(株)、奈半利町、(一社) なはりの郷</p>	<p>【拡充】</p> <p>奈半利町の観光振興の強化に向けて、藤村製絲記念館と、町内の体験型の観光施設である海浜センター、米ヶ岡生活体験学校を一体的にPRし誘客を図るため、プラン名を「奈半利町の観光施設の誘客強化による交流人口の拡大」として拡充し、事業主体に海浜センターと米ヶ岡生活体験学校を追加する。</p>



有望素材シート（31年度）（案）

市町村名	安田町	素材名	安田川アユおどる清流キャンプ場
		関連素材	（観光資源）第27番札所・神峯寺、安田町化石体験（採集）場、釜ヶ谷の滝など （体験メニュー）釣り、川遊び、ハイキング（周辺散策） など （地域食材）アユ、なす、山芋、地酒、地元産野菜 など

現状・課題	<p>&lt;現状&gt; 安田川アユおどる清流キャンプ場は開設以来25年間、安田町をはじめ県内外から多くの人が訪れ、東部地域を代表するキャンプ場として親しまれている。しかし、近年は施設の老朽化や災害による施設の損壊などの理由により利用者は減少しつづけ、最盛期には年間6,000人超の利用者数があったものの、近年では3,000人に満たない状況となっている。景観整備や施設自体の管理も行き届いていないため、近年、新設や改修による施設整備を行っている県内の他のキャンプ場等と比較し魅力が乏しい。また、誘客のための活動等は特に行われておらず、利用は夏期に集中しているうえ、キャンプ場のみの利用となっていることが多く、周辺への波及効果も薄い。結果として慢性的な赤字経営が続いており、現状のままでは集客数の大幅な増加やリピーターの獲得は望めない状況にある。</p>
	<p>&lt;課題&gt; 25年前の施設であるため、一部で老朽化が進んでおり、アウトドアの形態も開設当時とは変わってきているため、近年のアウトドアのスタイルにマッチしておらず、利用者が求める利便性や快適性に十分対応した施設となっていない。また、誘客のためのキャンプ場を利用したイベント企画や情報発信もされておらず、施設等の管理も行き届いていない。</p>
今後の方向性	<p>アウトドアに精通した専門家の協力を得ながらキャンプ場の現状と課題を整理し、近年のアウトドアのスタイルにマッチした施設の再整備と併せて、これまで取組の弱かった情報発信方法や管理運営方法等についても利用者目線での見直しを行うほか、安田町の自然を活かしたイベントの開催、釣りや川遊びなどの自然体験メニューの磨き上げ及び大手アウトドアメーカーからの商品等のサポートなど、利用者がわくわくするような取組を仕掛けることで、利用者数の大幅な増加・回復を目指す。また、キャンプ場を拠点として、周辺の観光施設等の情報提供や地元産野菜の販売など地域食材の利活用を図ることで、交流人口の拡大及び地域全体の活性化につなげていく。</p>



『地域アクションプラン』における具体的な取組（案）

項目	取組名	安田川アユおどる清流キャンプ場の再整備による交流人口の拡大と地域の活性化
	関係市町村名	安田町

事業の概要	<p>安田町の自然・体験型観光の拠点施設としてキャンプ場を再整備し、安田川をはじめとする地域資源を活用した季節毎に特色あるイベントの開催や体験メニューの強化、情報発信や施設の管理運営手法の見直しなどを行い、利用者数の大幅な増加を目指すほか、キャンプ場利用者への周辺施設への誘客や地域食材の利活用を推進し、交流人口の拡大と地域の活性化につなげる。</p> <p>&lt;参考：現在構想中の主なアイデア&gt; 「キャンプ場の再整備」・・・キャンプ区画の見直し、ドックラン施設、浴場整備、キャビン改修（Wi-fi設備、エアコン設置、トイレの温水洗浄便座化、ロフト設置）など 「特色あるイベント」・・・七夕、クリスマスといった季節に応じて星空鑑賞やキャンプファイヤーなどのイベントを実施 「体験メニュー」・・・釣りや川遊び、ハイキング（周辺散策）、ボルダリング、ツリーイングなどを地元の方々や地域おこし協力隊などの協力を得て行う。 例えば釣りなら漁師の指導や道具一切を貸し出すなどファミリー層が気軽に体験できるようにし、町内で体験出来ないメニューについては、本キャンプ場を拠点に近隣の市町村と連携し提案。 「情報発信」・・・メルマガ配信、SNS展開、キャンプ場ガイド掲載、ホームページ作成など 「管理運営手法」・・・専門家のノウハウを活かしたスタッフ教育や管理運営手法を取り入れるとともに大手メーカーのキャンプ用品の展示、レンタル及び販売等を実施</p>
-------	--

事業主体等	<p>【事業主体】 安田町 【関係機関】</p>
-------	----------------------------------

スケジュール	主な内容	初年度 【H31】	1年後 【H32】	2年後 【H33】	3年後 【H34】	4年後 【H35以降】
		<p>キャンプ場の再整備による磨き上げ</p> <p>実施設計、施設整備</p> <p>リニューアル施設の供用開始・運営、アウトドアの専門家等との連携</p>				
<p>利用者数アップに向けた仕組みづくり</p> <p>運営体制の強化</p> <p>集客に向けた取組の実践（イベントの充実、情報発信の強化）</p> <p>体験メニューの強化</p> <p>周辺施設への入り込み者数増加や地域食材の利活用の推進</p>						

指標・目標	項目	初年度 【H31】	1年後 【H32】	2年後 【H33】	3年後 【H34】	4年後 【H35以降】
	<p>キャンプ場利用者数</p> <p>【設定根拠】</p> <p>【推計の考え方】</p> <p>初年度は運営体制の強化や情報発信の強化等によりH29実績の2,765人からの微増の3,000人を目標とする（4月～11月の利用者数10%アップ、12月～3月の利用者数5%アップとする）。施設改修は、基本、営業しながら、閑散期を中心に順次改修工事を行っていく予定であり、これまでの利用実績をベースとし、これまで弱かった情報発信の強化に取り組むことで、上乗せ可能な数字と考えている。（アウトドアの専門家の知名度をPRに利用させてもらうことにより集客効果が十分見込める。） H32年度には再整備完了による再オープンに加えて集客に向けた取組を引き続き行っていくことで新規顧客やリピーターの獲得に努め、最終的にはピーク時の6,000人（H8実績）を目標とする。</p>	3,000	4,000	5,000	6,000	6,000

総事業費等	総事業費（内訳 国： 県： 市町村： 千円）	千円	（うち31年度	千円）	その他：	）
	想定する支援事業（補助金名称、人的支援の内容、その他）	国： 県： 市町村： 千円）	その他：	）	人的支援：	
備考						

## 追加項目(案)

### 【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>安田川アユおどる清流 キャンプ場の再整備によ る交流人口の拡大と地 域の活性化</p> <p>《安田町》</p>	<p>安田町の自然・体験型観光 の拠点施設としてキャンプ場 を再整備し、安田川をはじめ とする地域資源を活用したア クティビティの強化や季節毎 に特色あるイベントの開催、 情報発信や施設の管理運営 手法の見直しなどを行い、利 用者数の大幅な増加を目指 すほか、キャンプ場利用者 への周辺施設への誘客や地 域食材の利活用を推進し、 交流人口の拡大と地域の活 性化につなげる。</p>	<p>・安田町</p>	<p>アクションプランの取組開始：H31</p>		<p>◆キャンプ場の再整備 による磨き上げ</p> <p>◆利用者数アップに向 けた仕組みづくり</p>

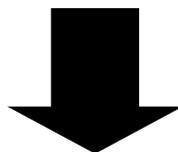
第3期計画				H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31		指標	目標値(H31)
			<p>キャンプ場の再整備による磨き上げ</p> <p>実施設計、施設整備</p> <p>リニューアル施設の供用開始・運営、アウトドアの専門家等との連携</p> <p>利用者数アップに向けた仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営体制の強化</li> <li>・集客に向けた取組の実践(イベントの充実、情報発信の強化)</li> <li>・体験メニューの強化</li> <li>・周辺施設への入り込み客数増加や地域食材の利活用の推進</li> </ul>		<p>キャンプ場利用者数 (H29:2,765人)</p>	<p>3,000人</p>

統合項目(案)

【安芸地域】

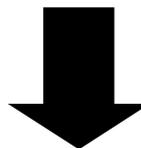
項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>20 世界ジオパーク認証を活かした観光の振興 《室戸市》</p> <p>統合前①</p>	<p>世界ジオパークに認証された室戸ジオサイトにおける受入体制の整備や旅行商品開発に取り組み交流人口の拡大を図る。</p>	<p>・室戸市 ・室戸ジオパーク推進協議会 ・室戸市観光協会</p>	<p>・日本ジオパーク全国大会の開催(H24) ・室戸世界ジオパークセンターの整備(H25～26) ・室戸世界ジオパークセンターオープン(H27) ・世界ジオパーク再認定(H27) ・土佐の観光創生塾に参加(H27:5人) ・観光アドバイザーによる館内ガイド接遇研修実施(H28) ・室戸世界ジオパークセンター施設の拡充(H28:映像体感コーナーの設置等、H29:映像体感コーナーの拡充(2面→3面化)等) ・室戸ジオパークガイドスキルアップ研修(H29) ◆日本ジオパーク全国大会(参加者:約2,200人)を開催し、宿泊・食事利用等の経済効果や地域住民との連携が図られるとともに、室戸ジオパークの理解が促進された。 また、ジオパークの拠点となる「室戸世界ジオパークセンター」の整備により、受入体制が強化された。 ジオパークガイド利用者数 H27: 15,868人 H28: 7,076人 室戸世界ジオパークセンター来場者数 H27: 103,065人 H28: 76,629人</p>	<p>・受入体制の強化 ・ジオパークセンターの整備 ・ジオサイトの見直し</p>	<p>◆ガイド育成 ◆ジオツアー・体験プログラムの推進 ◆情報発信、国際交流 ◆ジオパークセンターの整備 ◆サイト整備</p>

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>21 「海の駅とろむ」を核とした交流人口の拡大 《室戸市》</p> <p>統合前②</p>	<p>アクションプランの取組開始:H21 ・施設・設備等(ウエットスーツ、浮き桟橋、倉庫、屋外看板)の充実(H21～23) ・広告宣伝の強化(H21～23) ・体験プログラムの見直し(H22～23) ・陸上施設の建築及び陸上プール(直径10m、水深5m)の整備(H24) ・補助プールの整備(H25) ◆高額プログラムのドルフィンスイムの参加者が大幅に増加した。 (H20:1,204人→H26:1,464人) また、設備等の充実や物販・休憩スペースの確保により、来場者の満足度の向上、事業収入の増加につながった。 ・スジアオノリ養殖施設の整備(H29)</p>	<p>・NPO法人室戸ドルフィンプロジェクト ・室戸黒潮協同組合 ・(一社)うみ路 ・室戸市</p>	<p>アクションプランの取組開始:H21 ・施設・設備等(ウエットスーツ、浮き桟橋、倉庫、屋外看板)の充実(H21～23) ・広告宣伝の強化(H21～23) ・体験プログラムの見直し(H22～23) ・陸上施設の建築及び陸上プール(直径10m、水深5m)の整備(H24) ・補助プールの整備(H25) ◆高額プログラムのドルフィンスイムの参加者が大幅に増加した。 (H20:1,204人→H26:1,464人) また、設備等の充実や物販・休憩スペースの確保により、来場者の満足度の向上、事業収入の増加につながった。 ・スジアオノリ養殖施設の整備(H29)</p>	<p>・より多くの集客を図るための広報・営業の検討 ・とろむ内の全施設と連携した集客 ・ダイビング事業展開のための事業推進体制の整備</p>	<p>◆室戸ドルフィンセンターの広報・営業力強化 ◆室戸黒潮協同組合(ぢばうま八、くじらはま)の機能強化 ◆「貝類等収穫体験」の施設整備 ◆ダイビング事業展開に向けた施設整備等</p>



第3期計画					指標及び目標		
H28	H29	H30	H31	H32以降	指標	目標値(H31)	
ガイドの育成					→	ジオパークガイド利用者数(H26:7,869人)	10,000人
ガイド研修(登録ガイド数の増加・外国語対応ガイドの育成)							
ジオツアー・体験プログラムの推進					→	室戸世界ジオパークセンター入館者数(H26:0人)	70,000人
既存ジオツアー・体験プログラムのブラッシュアップ							
ジオツアー・体験プログラムの開発・実施							
ジオパークセンターを発着地としたジオツアーの開発							
情報発信、国際交流					→		
日本ジオパーク再審査 世界ジオパーク再審査							
全国大会及び国際会議でのPR・イベント開催 主要パンフレット等の更新・多言語化							
ジオパークセンターの整備					→		
遊休地の利活用検討・整備							
体育館・プールの利活用検討		体育館・プールの整備					
展示内容のリニューアル							
サイト整備					→		
既存ジオサイトの見直し・新規ジオサイトの検討							
ジオサイトの再整備							

第3期計画					指標及び目標		
H28	H29	H30	H31	H32以降	指標	目標値(H31)	
室戸ドルフィンセンターの広報・営業力強化					→	室戸ドルフィンセンター来場者数(H22:22,181人)(H26:24,431人)	31,000人
体制強化と人材育成							
とろむ内全施設が連携した情報発信							
新規プログラムの開発		オリジナルグッズの開発		施設の磨き上げ			
室戸黒潮協同組合(ちぼうま八、くじらはま)の機能強					→		
教育旅行の受入							
魅力ある店舗づくりと広報・宣伝活動							
「貝類等収獲体験」の施設整備					→		
施設整備に向けた検討		施設整備		規模拡大に向けた検討			
体験プログラムの実施と広報・宣伝活動							
ダイビング事業展開に向けた施設整備等					→		
施設整備の検討 関係者との調整							
施設整備 テナント募集 広報							
ダイビング事業実施 ダイビングショップへの情報発信(ダイビングスポット)							



【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
20 室戸市の観光資源を活かした交流人口の拡大 地域振興 (室戸市)	世界ジオパークに認定された室戸ジオサイトやむろと廃校水族館、海の駅とろむなどの観光資源の魅力度を高めるとともに、各施設の連携強化により周遊・滞在型観光への転換を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・室戸市</li> <li>・室戸ジオパーク推進協議会</li> <li>・室戸市観光協会</li> <li>・NPO法人室戸ドルフィンプロジェクト</li> <li>・室戸黒潮協同組合</li> <li>・(一社)うみ路</li> <li>・NPO法人日本ウミガメ協議会</li> <li>・ライダーズイン指定管理者</li> <li>・民間事業者</li> </ul>	<p>アクションプランの取組開始:H21 &lt;ジオパーク&gt; ・日本ジオパーク全国大会の開催(H24)</p> <p>・室戸世界ジオパークセンターの整備(H25~26)</p> <p>・室戸世界ジオパークセンターオープン(H27)</p> <p>・世界ジオパーク再認定(H27)</p> <p>・土佐の観光創生塾に参加(H27:5人)</p> <p>・観光アドバイザーによる館内ガイド接遇研修実施(H28)</p> <p>・室戸世界ジオパークセンター施設の拡充(H28:映像体感コーナーの設置等、H29:映像体感コーナーの拡充(2面→3面化)等)</p> <p>・室戸ジオパークガイドスキルアップ研修(H29)</p> <p>◆日本ジオパーク全国大会(参加者:約2,200人)を開催し、宿泊・食事利用等の経済効果や地域住民との連携が図られるとともに、室戸ジオパークの理解が促進された。</p> <p>また、ジオパークの拠点となる「室戸世界ジオパークセンター」の整備により、受入体制が強化された。</p> <p>・日本ジオパーク再認定(H30)</p> <p>ジオパークガイド利用者数 H27: 10,592人 H28: 7,743人 H29: 7,115人</p> <p>室戸世界ジオパークセンター来場者数 H27: 103,065人 H28: 76,629人 H29: 73,811人</p> <p>&lt;海の駅とろむ&gt; アクションプランの取組開始:H21 ・施設・設備等(ウエットスーツ、浮き桟橋、倉庫、屋外看板)の充実(H21~23)</p> <p>・広告宣伝の強化(H21~23)</p> <p>・体験プログラムの見直し(H22~23)</p> <p>・陸上施設の建築及び陸上プール(直径10m、水深5m)の整備(H24)</p> <p>・補助プールの整備(H25)</p> <p>◆高額プログラムのドルフィンスイムの参加者の推移 (H20: 1,204人→H26: 1,464人→H27: 2,071人→H28: 1,561人→H29: 1,231人)</p> <p>また、設備等の充実や物販・休憩スペースの確保により、来場者の満足度の向上、事業収入の増加につながった。</p> <p>・スジアオノリ養殖施設の整備(H29)</p> <p>&lt;むろと廃校水族館&gt; アクションプランの取組開始:H27 ・施設改修工事完了(H29)</p> <p>・廃校水族館来館者数 H30.12末時点 125,271人</p>	<p>・施設間の連携による周遊型・滞在型観光への転換</p> <p>・体験型観光地としての認知度向上</p> <p>&lt;ジオパーク&gt; ・受入体制の強化 ・ジオパークセンターの整備</p> <p>&lt;海の駅とろむ&gt; ・集客力を高めるための企画及びPR ・周辺施設との連携 ・ダイビング事業展開のための事業体験推進</p> <p>&lt;むろと廃校水族館&gt; ・集客の仕組みづくり及び情報発信</p> <p>&lt;ライダーズイン&gt; ・周辺施設との連携 ・発信の強化</p>	<p>◆周遊型・滞在型観光の旅行商品開発</p> <p>◆情報発信、営業力の強化</p> <p>&lt;ジオパーク&gt; ◆ガイド育成</p> <p>◆ジオツアー・体験プログラムの推進</p> <p>◆情報発信、国際交流</p> <p>◆ジオパークセンターの整備</p> <p>◆サイトの整備</p> <p>&lt;海の駅とろむ&gt; ◆室戸ドルフィンセンターの広報・営業力強化</p> <p>◆室戸黒潮協同組合(だばうま八、くじらはま)の機能強化</p> <p>◆「貝類等収穫体験」の施設整備</p> <p>◆ダイビング事業展開に向けた施設整備等</p> <p>&lt;むろと廃校水族館&gt; ◆施設整備及び施設整備後の集客の仕組みづくり</p> <p>&lt;ライダーズイン&gt; ◆施設整備</p> <p>◆広報・PR</p>
					統合後



## 分割項目(案)

### 【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
26 旧椎名小学校を活用した地域振興 《室戸市》  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">分割前</div>	旧椎名小学校の改修にあわせてミニ水族館、標本などの模型の展示、魚さばき体験スペースなどを整備するとともに、住民主体の活動を促進し、地域の課題解決や交流人口の拡大を図るため集落活動センター設置に向けて取り組む。	・室戸市 ・地域住民団体(椎名常会) ・椎名大数組合 ・民間事業者	アクションプランの取組開始:H27 ・椎名小学校利活用検討委員会(H27.3回) ・地元説明会(H27) ・地域住民との先進地視察(H28~29) ・地区住民によるワークショップ(H28) ・集落支援員1名の雇用開始(H29) ・施設改修工事完了(H29)	・施設の利活用及び運営体制の検討 ・ウミガメ協議会や椎名大数組合との連携 ・住民の組織づくり ・外部人材の活用	◆施設整備          ◆集落活動センターの設置          ◆情報発信



### 【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
26 旧椎名小学校を活用した地域振興 《室戸市》  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">分割後①</div>	旧椎名小学校の改修にあわせてミニ水族館、標本などの模型の展示、魚さばき体験スペースなどを整備するとともに、住民主体の活動を促進し、地域の課題解決や交流人口の拡大を図るため集落活動センター設置に向けて取り組む。	・室戸市 ・地域住民団体(椎名常会) ・椎名大数組合 ・民間事業者 ・椎名集落活動センターの新しい運営委員会	アクションプランの取組開始:H27 ・椎名小学校利活用検討委員会(H27.3回) ・地元説明会(H27) ・地域住民との先進地視察(H28~29) ・地区住民によるワークショップ(H28) ・集落支援員1名の雇用開始(H29) ・施設改修工事完了(H29) ・集落活動センター開所(H30) ◆イベント開催やピザ体験・販売など経済活動にも広がりをみせる	・施設の利活用及び運営体制の検討 ・ウミガメ協議会や椎名大数組合との連携 ・住民の組織づくり ・外部人材の活用	◆施設整備          ◆集落活動センターの設置          ◆情報発信

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
AP20「室戸市の観光資源を活かした交流人口の拡大・地域振興」に統合  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">分割後②</div>		・NPO法人日本ウミガメ協議会	アクションプランの取組開始:H27 ・施設改修工事完了(H29) ・廃校水族館来館者数 H30.11末時点 113,628人	・集客の仕組みづくり及び情報発信	◆施設整備及び施設整備後の集客の仕組みづくり

第3期計画					指標及び目標		
H28	H29	H30	H31	H32以降	指標	目標値(H31)	
施設整備					→		
施設の改修		魚類等の展示と体験プログラムの実施					
管理運営体制の検討					→		
集落活動センターの設置							
住民の組織づくり		事業内容の検討			→		
事業活動の展開							
外部人材の活用					→		
情報発信							
PR方法の検討		広報・PRの実施			→		



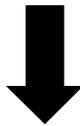
第3期計画					指標及び目標		
H28	H29	H30	H31	H32以降	指標	目標値(H31)	
施設整備					→	集活センター利用者数(H28:0人)	5,500人
施設の改修							
管理運営体制の検討					→	交流イベント開催数(H28:0回)	200回
集落活動センターの設置							
住民の組織づくり		事業内容の検討			→		
交流イベントの開催・イベントのブラッシュアップ							
販売活動充実に向けた施設利用方法等の検討					→		
事業活動の展開							
外部人材の活用					→		
情報発信							
PR方法の検討		広報・PRの実施			→		

第3期計画					指標及び目標		
H28	H29	H30	H31	H32以降	指標	目標値(H31)	
施設整備及び施設整備後の集客の仕組みづくり					→	来校水族館来館者数	100,000人
施設の改修		魚介類等の展示と体験プログラムの実施					
広報・PRの実施					→		

修正項目(案)

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>24 藤村製絲を活用した観光振興</p> <p>《奈半利町》</p> <p>※地域産業クラスター関連(奈半利町の集落活動センターを中心としたクラスター)</p> <p style="text-align: center;">修正前</p>	<p>藤村製絲記念館を活用した観光振興に取り組むことにより、交流人口の拡大を図る。</p>	<p>・藤村製糸(株) ・奈半利町 ・(一社)なはりの郷</p>	<p>アクションプランの取組開始:H26 ・高知県観光拠点等整備事業費補助金を活用し、観光拠点施設となる藤村製絲記念館を建設(H26) ・奈半利町集落活動センター(なはりの郷)が事業主体となり、高知県観光拠点等整備事業費補助金を活用し、新たに観光案内看板、観光ガイドブック、町歩きマップ、展示用パネルを整備(H28)</p>	<p>・藤村製絲記念館の活用拡大 ・関係機関との連携 ・広報等の強化</p>	<p>◆記念館の活用拡大</p>

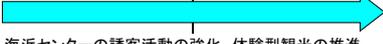


【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>24 奈半利町の観光施設の顧客強化による交流人口の拡大</p> <p>《奈半利町》</p> <p>※地域産業クラスター関連(奈半利町の集落活動センターを中心としたクラスター)</p> <p style="text-align: center;">修正後</p>	<p>藤村製絲記念館、海浜センター、米ヶ岡生活体験学校の観光施設の顧客強化による交流人口の拡大を図る。</p>	<p>・奈半利町 ・(一社)なはりの郷 ・藤村製糸(株) ・海浜センター ・米ヶ岡生活体験学校</p>	<p>アクションプランの取組開始:H26 ・高知県観光拠点等整備事業費補助金を活用し、観光拠点施設となる藤村製絲記念館を建設(H26) ・奈半利町集落活動センター(なはりの郷)が事業主体となり、高知県観光拠点等整備事業費補助金を活用し、新たに観光案内看板、観光ガイドブック、町歩きマップ、展示用パネルを整備(H28)</p>	<p>・藤村製絲記念館の活用拡大 ・海浜センターの顧客活動の強化 ・関係機関との連携 ・広報等の強化</p>	<p>◆記念館の活用拡大</p> <p>◆海浜センターの顧客活動の強化、体験型観光の推進</p> <p>◆米ヶ岡生活体験学校の体験型観光の推進</p>

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
					来館者数(1月～12月) (H26:0人)	1,500人	
記念館の活用拡大	観光資源としての磨き上げ						
(一社)高知県東部観光協議会等と連携した誘客活動の強化							
町内ガイド組織との連携	町並みガイド等での活用拡大						
住民とのワークショップによる観光施策の検討	観光パンフレットの作成やホームページ等による情報発信の強化						



第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
					記念館来館者数(1月～12月) (H26:0人)	1,500人	
記念館の活用拡大	観光資源としての磨き上げ						
(一社)高知県東部観光協議会等と連携した誘客活動の強化							
町内ガイド組織との連携	町並みガイド等での活用拡大						
住民とのワークショップによる観光施策の検討	観光パンフレットの作成やホームページ等による情報発信の強化						
					海浜センター利用客 数(H26:382人)	650人	
海浜センターの誘客活動の強化、体験型観光の推進							
施設整備・周辺整備の検討・整備							
体験プログラムの造成・磨き上げ							
戦略的な広報活動の展開及びホームページ、パンフレット等による観光情報の発信強化							
							
米ヶ岡生活体験学校の体験型観光の推進							
体験・交流イベントの強化、情報発信							



第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
従業者の拡大		研修生の受入			出荷量 (H26:1,076t)	1,580t	
					新規就労者数 (H24~27 11人)	26人(H28~31累計)	
生産施設の整備		炭窯、保管庫等の設置			製炭窯設置 (H24~26 増設7基)	21基(H28~31累計)	
カン類原木の活用		製炭技術の改良等					
大規模所有者からの原木調達		原木林の共同購入等					
組織力の強化		未加入製炭者の組織化、生産者団体の事務局機能の強化等					
新商品の開発		ザツ白炭・黒炭の生産、広葉樹原木を活用した商品の生産					
生産拠点の拡大に向けた検討							
		安芸市等東部地域での生産拠点拡大に向けた検討					

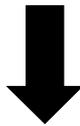


第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
従業者の拡大		研修生の受入			出荷量 (H26:1,076t)	1,580t	
					新規就労者数 (H24~27 11人)	26人(H28~31累計)	
生産施設の整備		炭窯、保管庫等の設置			製炭窯設置 (H24~26 増設7基)	21基(H28~31累計)	
カン類原木の活用		製炭技術の改良等					
大規模所有者からの原木調達		原木林の共同購入等					
組織力の強化		未加入製炭者の組織化、生産者団体の事務局機能の強化等					
新商品の開発		ザツ白炭・黒炭の生産、広葉樹原木を活用した商品の生産					
生産拠点の拡大に向けた検討							
		安芸市等東部地域での生産拠点拡大に向けた検討					

修正項目(案)

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>12 海の駅東洋町を拠点とした地域振興 《東洋町》</p> <p style="text-align: center;">修正前</p>	高知県の東の玄関口である東洋町の観光拠点施設および地元特産品の販売、飲食施設等の機能を持つ「海の駅東洋町」により地域の活性化を図る。	・東洋町 ・東洋町観光振興協会	アクションプランの取組開始:H21 ・H20.1月、海の駅東洋町(木造平屋建、171㎡)開設 ・H24.7月の火災による焼失のため、産業振興総合補助金を活用しH25.12月再建(木造平屋建、267㎡) ・H26.1月から運営再開 ◆順調に売り上げを伸ばしている。 売上高 H27:161,151千円 H28:177,031千円 来場者 H27:174,122人 H28:189,747人 ・教育旅行の受入(H28:1回,H29:2回) ・直販所支援アドバイザー派遣制度の活用(H28、接客マナーとPOP作成研修)	・運営体制の強化 ・地域産品を活用した加工品の確保 ・観光拠点機能の強化	◆運営体制の強化  ◆地域特産品を活用した加工品の開発・販売



【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>12 海の駅東洋町を拠点とした地域振興 《東洋町》</p> <p style="text-align: center;">修正後</p>	高知県の東の玄関口である東洋町の観光拠点施設および地元特産品の販売、飲食施設等の機能を持つ「海の駅東洋町」により地域の活性化を図る。	・東洋町 ・東洋町観光振興協会	アクションプランの取組開始:H21 ・H20.1月、海の駅東洋町(木造平屋建、171㎡)開設 ・H24.7月の火災による焼失のため、産業振興総合補助金を活用しH25.12月再建(木造平屋建、267㎡) ・H26.1月から運営再開 ◆順調に売り上げを伸ばしている。 売上高 H27:161,151千円 H28:177,031千円 H29:167,576千円 来場者 H27:174,122人 H28:189,747人 H29:178,883人 ・教育旅行の受入(H28:1回,H29:2回,H30:2回) ・直販所支援アドバイザー派遣制度の活用(H28、接客マナーとPOP作成研修) ・直販所活性化セミナー受講(H30、売り場改善、集客活動)	・運営体制の強化 ・地域産品を活用した加工品の確保 ・観光拠点機能の強化	◆運営体制の強化  ◆地域特産品を活用した加工品の開発・販売

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
					売上高 (H22:133,765千円) (H26:141,938千円)	168,990千円	
運営体制の強化 出品者勉強会の開催、従業員研修の実施 責任者の配置							来場者数 (H22:153,446人) (H26:157,790人)
					加工施設の整備 ネット販売の実施		
地域特産品を活用した加工品の開発・販売 加工品の開発・販売による地産外商 加工施設の整備に向けた検討							
ネット販売の検討			ネット販売の実施				
ネット販売の検討							



第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
					売上高 (H22:133,765千円) (H26:141,938千円)	168,990千円	
運営体制の強化 出品者勉強会の開催、従業員研修の実施 責任者の配置							来場者数 (H22:153,446人) (H26:157,790人)
					ネット販売の実施		
地域特産品を活用した加工品の開発・販売 加工品の開発・販売による地産外商 加工施設の整備に向けた検討							
ネット販売の検討			ネット販売の実施				
ネット販売の検討							



第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
						売上高 (H26:0千円)	20,000千円
加工施設の整備	施設整備の検討・整備			加工体制・設備の強化			
	原料確保の強化						
							
商品開発と販路拡大	新商品開発・商品のブラッシュアップ						
	販促ツールの作成・販路の開拓						
	ブランド化に向けた取組						

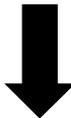


第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
						売上高 (H26:0千円)	20,000千円
加工施設の整備	施設整備の検討・整備			加工体制・設備の強化			
	原料確保の強化						
							
商品開発と販路拡大	新商品開発・商品のブラッシュアップ						
	販促ツールの作成・販路の開拓						
	ブランド化に向けた取組						

修正項目(案)

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>15 完全天日塩を活用した産業振興及び観光への活用</p> <p>《田野町》</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">修正前</p>	製塩体験施設での塩づくり体験を通じて交流人口の拡大を図るとともに、新たな就業者の育成と関連産業への波及を図る。	・田野町 ・民間事業者	<p>アクションプランの取組開始：H24</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・塩づくりの過程を見学・体験できる施設を整備(H24)、H25オープン</li> <li>・町内の産業振興等の業務とあわせて、体験施設運営や塩づくりに携わる地域おこし協力隊を導入(H25:4人、H26:2人、H27:2人(H27.12月末時点で3人))</li> <li>・台風被害によりH26.8月以降休止、H27.4月から再開。</li> <li>・新たな体験メニューの実施(H27)</li> <li>・塩に関する掲示物の作成及び多言語表記(H27)</li> <li>・産業振興総合補助金(担い手育成)を活用し、製塩研修施設を整備(H29)</li> </ul> <p>◆H27の入込客数はオープンでにぎわったH25と同程度まで回復。 ◆施設の知名度が上がって、町内外から多くの学校が訪れるようになり、体験教育の場として活用されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験施設の実施体制の確立</li> <li>・集客できる体験メニューの充実</li> <li>・新規就業者の育成と関連産業への波及</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆製塩体験施設の運営体制の整備と誘客増</li> <li>◆新規就業者の育成・環境整備</li> <li>◆関連産業への波及</li> </ul>



【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
<p>15 完全天日塩を活用した産業振興及び観光への活用</p> <p>《田野町》</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">修正後</p>	製塩体験施設での塩づくり体験を通じて交流人口の拡大を図るとともに、新たな就業者の育成と関連産業への波及を図る。	・田野町 ・民間事業者	<p>アクションプランの取組開始：H24</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・塩づくりの過程を見学・体験できる施設を整備(H24)、H25オープン</li> <li>・町内の産業振興等の業務とあわせて、体験施設運営や塩づくりに携わる地域おこし協力隊を導入(H25:4人、H26:2人、H27:2人、H28:2人、H29:2人、H30:4人)</li> <li>・台風被害によりH26.8月以降休止、H27.4月から再開。</li> <li>・新たな体験メニューの実施(H27)</li> <li>・塩に関する掲示物の作成及び多言語表記(H27)</li> <li>・産業振興総合補助金(担い手育成)を活用し、製塩研修施設を整備(H29)</li> <li>・生産用レンタルハウス建設(H30)</li> <li>・製塩体験施設はスタッフ不足によりH29.10～H30.5まで休館</li> <li>・ゆずFoSプログラムの実施(H30)</li> </ul> <p>◆施設の知名度が上がって、町内外から多くの学校が訪れるようになり、体験教育の場として活用されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験施設の実施体制の確立</li> <li>・集客できる体験メニューの充実</li> <li>・新規就業者の育成と関連産業への波及</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆製塩体験施設の運営体制の整備と誘客増</li> <li>◆新規就業者の育成・環境整備</li> <li>◆関連産業への波及</li> </ul>

第3期計画				H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31		指標	目標値(H31)
製塩体験施設の運営体制の整備と誘客増				→	体験受入回数 (H25:24回)	28回
施設の運営体制の整備、塩づくり体験を取り入れた観光メニューの造成と更なるPRによる誘客増					受入人数 (H25:体験226人、見学:960人 計1,186人)	体験:271人 見学:1,152人 計 1,423人
新規就業者の育成・環境整備				→	塩関連での就業者 数(H26:2人)	10人(累計)
・方向性・実施方法の検討 ・関係者間の調整	施設整備	新規就業者の育成				
新規就業者の独立に向けた環境整備の検討、関係者間の調整						
関連産業への波及				→		
農産物等への活用検討、加工品開発の支援、販路拡大の支援等						



第3期計画				H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31		指標	目標値(H31)
製塩体験施設の運営体制の整備と誘客増				→	体験受入回数 (H25:24回)	28回
施設の運営体制の整備、塩づくり体験を取り入れた観光メニューの造成と更なるPRによる誘客増					受入人数 (H25:体験226人、見学:960人 計1,186人)	体験:271人 見学:1,152人 計 1,423人
新規就業者の育成・環境整備				→	塩関連での就業者 数(H26:2人)	10人(累計)
・方向性・実施方法の検討 ・関係者間の調整	施設整備	新規就業者の育成				
新規就業者の独立に向けた環境整備の検討、関係者間の調整						
関連産業への波及				→		
農産物等への活用検討、加工品開発の支援、販路拡大の支援等						

修正項目(案)

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
18 安芸地域の観光振興の推進  《安芸地域全域》	H27年度に開催された東部地域博覧会で培った安芸地域の観光のノウハウを引き継ぎ、同博覧会の成果を更に拡大させることにより、安芸地域外からの誘客を増加させて地域経済の活性化を図る。併せて新たに設立した広域観光組織の基盤を整備し、体験プログラムの磨き上げ、民泊の推進、情報発信等を行うとともに、歴史と食、地域文化の組み合わせによる観光クラスターの整備を推進する。	・(一社)高知東部観光協議会 ・安芸広域市町村圏事務組合 ・市町村 ・観光協会等 ・地域団体 ・民間事業者	アクションプランの取組開始:H21 ・観光素材集「土佐東方言聞録」の作成5万部(H21~22) ・DVDの作成 500枚(H21) ・ランドオペレーター1人雇用(H22.6月~) ・安芸球場キャンプ誘致活動(H21~23) ・安芸球場改修基本設計(H23) ・エージェントセールス(H25.1.10~11中四国、H25.2.5~8関西) ・教育旅行誘致用の広域パンフレット作成(H25) ・東部地域博覧会の「基本計画」(H26)、「実施計画」(H26)の策定 ・東部地域博覧会の推進に向けたイベント審査会、企画運営部会、企画運営コアメンバー会、広報誘客部会、受入おもてなし部会の設置及び開催(H26) ・広域観光アドバイザー研修:13回(H26) ・東部博覧地研修:3回(H27) ・東部地域博覧会実施計画に基づく広報PR及びセールス活動(H26~27) ・(一社)高知東部観光協議会設立(H27) ・高知東部観光協議会を中心とした県外での観光PR実施、旅行会社へのセールス活動実施、東部地域での民泊候補世帯の訪問による民泊登録世帯の増加(H28~30) ・マーケティング調査の実施(H28) ・(一社)高知東部観光協議会が第2種旅行業登録(H28) ◆業材集を活用した国外エージェントやマスコミへの営業活動を展開。特に新幹線、車中泊ツアー、モトの鹿をメインに東部地域の面的なPRを実施。今後の足がかりにつながった。 また、東部地域博覧会(H27.4.29~12.23)の開催により、新たなイベントや体験プログラム等の造成、観光素材の磨き上げが行われた。さらに、東部地域博覧会の広報PR、セールス活動により、東部地域の観光素材が広く認知された。	・東部博の成果の継続と地域への波及 ・東部観光協議会の基盤整備及びミッションの明確化 ・東部地域内の行政や住民との連携強化 ・戦略的な商品造成	◆東部観光協議会の事業計画(3か年)に基づく基盤整備等の実施  ◆観光協会等の機能強化と東部観光協議会との連携  ◆戦略的な広報・PR活動の展開  ◆着地型商品の造成・販売  ◆教育旅行の受入体制の強化、スポーツツーリズムの推進及びインバウンド対策の実施

修正前



【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
18 安芸地域の観光振興の推進  《安芸地域全域》	H27年度に開催された東部地域博覧会で培った安芸地域の観光のノウハウを引き継ぎ、同博覧会の成果を更に拡大させることにより、安芸地域外からの誘客を増加させて地域経済の活性化を図る。併せて新たに設立した広域観光組織の基盤を整備し、体験プログラムの磨き上げ、民泊の推進、情報発信等を行うとともに、歴史と食、地域文化の組み合わせによる観光クラスターの整備を推進する。	・(一社)高知東部観光協議会 ・安芸広域市町村圏事務組合 ・市町村 ・観光協会等 ・地域団体 ・民間事業者	アクションプランの取組開始:H21 ・観光素材集「土佐東方言聞録」の作成5万部(H21~22) ・DVDの作成 500枚(H21) ・ランドオペレーター1人雇用(H22.6月~) ・安芸球場キャンプ誘致活動(H21~23) ・安芸球場改修基本設計(H23) ・エージェントセールス(H25.1.10~11中四国、H25.2.5~8関西) ・教育旅行誘致用の広域パンフレット作成(H25) ・東部地域博覧会の「基本計画」(H26)、「実施計画」(H26)の策定 ・東部地域博覧会の推進に向けたイベント審査会、企画運営部会、企画運営コアメンバー会、広報誘客部会、受入おもてなし部会の設置及び開催(H26) ・広域観光アドバイザー研修:13回(H26) ・東部博覧地研修:3回(H27) ・東部地域博覧会実施計画に基づく広報PR及びセールス活動(H26~27) ・(一社)高知東部観光協議会設立(H27) ・高知東部観光協議会を中心とした県外での観光PR実施、旅行会社へのセールス活動実施、東部地域での民泊候補世帯の訪問による民泊登録世帯の増加(H28~30) ・マーケティング調査の実施(H28) ・(一社)高知東部観光協議会が第2種旅行業登録(H28) ・日本版DMO形成に向けた観光戦略の検討・策定(H29~30) ・日本版DMO候補法人への登録(H30) ◆DMO形成に向けた観光戦略を策定し、基本理念やターゲット層、抱える課題等を関係者間で共有し協議することができた。また、取組が進む日本版DMO候補法人として登録された。	・東部博の成果の継続と地域への波及 ・東部観光協議会の基盤整備及びミッションの明確化 ・東部地域内の行政や住民との連携強化 ・戦略的な商品造成	◆東部観光協議会の事業計画(3か年)に基づく基盤整備等の実施  ◆観光協会等の機能強化と東部観光協議会との連携  ◆戦略的な広報・PR活動の展開  ◆着地型商品の造成・販売  ◆教育旅行の受入体制の強化、スポーツツーリズムの推進及びインバウンド対策の実施

修正後

第3期計画					指標及び目標			
H28	H29	H30	H31	H32以降	指標	目標値(H31)		
東部観光協議会の事業計画(3か年)に基づく基盤整備等の実施 旅行業の登録 マーケティング調査及び分析の実施並びに調査結果に基づく観光戦略づくり					圏内主要施設訪問者数(圏内観光施設、体験プログラム、直販施設及びイベント集客数)(1月~12月) (H27:2,401,821人)	2,606,000人		
マーケティング調査の継続実施及び観光戦略の実施								
観光協会等の機能強化と東部観光協議会との連携 観光協会等の機能強化・情報共有会議の継続開催による役割分担の明確化及び目標の共有							圏内宿泊者数(1月~12月) (H27:138,229人)	150,000人
戦略的な広報・PR活動の展開 東部地域のホームページ 旅行エージェント、マスコミ等への戦略的な広報活動の展開及びホームページ、パンフレット等による観光情報の発信強化								
着地型商品の達成・販売 旅行業の登録 体験プログラムの磨き上げやマーケティング調査結果を活用した東部地域での周遊観光の商品化及び東部地域での観光クラスターづくりへの支援								
教育旅行の受入体制の強化、スポーツツーリズムの推進及びインバウンド対策の実施 教育旅行の受入体制の強化による誘客の推進 地域内スポーツ拠点施設等を活用した大会や合宿等の誘致と施設整備 民泊の推進、人材の養成、インバウンド対策など受入体制の整備								



第3期計画					指標及び目標			
H28	H29	H30	H31	H32以降	指標	目標値(H31)		
東部観光協議会の事業計画(3か年)に基づく基盤整備等の実施 旅行業の登録 マーケティング調査及び分析の実施並びに調査結果に基づく観光戦略づくり					圏内主要施設訪問者数(圏内観光施設、体験プログラム、直販施設及びイベント集客数)(1月~12月) (H27:2,401,821人)	2,606,000人		
マーケティング調査の継続実施及び観光戦略の実施								
観光協会等の機能強化と東部観光協議会との連携 観光協会等の機能強化・情報共有会議の継続開催による役割分担の明確化及び目標の共有							圏内宿泊者数(1月~12月) (H27:138,229人)	150,000人
戦略的な広報・PR活動の展開 東部地域のホームページ 旅行エージェント、マスコミ等への戦略的な広報活動の展開及びホームページ、パンフレット等による観光情報の発信強化								
着地型商品の達成・販売 旅行業の登録 体験プログラムの磨き上げやマーケティング調査結果を活用した東部地域での周遊観光の商品化及び東部地域での観光クラスターづくりへの支援								
教育旅行の受入体制の強化、スポーツツーリズムの推進及びインバウンド対策の実施 教育旅行の受入体制の強化による誘客の推進 地域内スポーツ拠点施設等を活用した大会や合宿等の誘致と施設整備 民泊の推進、人材の養成、インバウンド対策など受入体制の整備								

修正項目(案)

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
22 岩崎弥太郎や地域食材等を活用した観光の推進 《安芸市》 ※地域産業クラスター関連(日本一のナス産地拡大プロジェクト)	既存の観光資源の磨き上げや、自然・歴史文化等の地域資源を活用した新たな体験プログラムの造成、地域食材を活用したメニューや商品の開発等により地域ブランド力及び観光客の満足度の向上を図り、交流人口の拡大及び観光関連産業の活性化に繋げる。	・安芸市 ・安芸市観光協会 ・漁協 ・伊尾木あなごう保存会 ・内原野陶芸館 ・JA土佐あき ・安芸市観光ボランティアガイドの会 ・廊中ふるさと館 ・メリーガーデン ・はたやま亭 ・安芸「釜あげちりめん井」楽会 ・道の駅大山	アクションプランの取組開始:H21 ・土佐龍馬であい博での、こころざし社中開催(H22入場者、113千人、目標100千人) ・H23.3月、安芸観光情報センターの設置 ・岩崎弥太郎像の移転(H26) ・廊中ふるさと館の施設改修(H26) ・安芸観光情報センターの改修(H26) ・内原野陶芸館の改修(H26) ・安芸「釜あげちりめん井」楽会による、ちりめん井の市内外でのPR活動やちりめん井提供店舗拡大の取組(H22~) ・道の駅大山の改修(H29) ・伊尾木洞を核とした観光客の周遊及び満足度向上のための取組開始(H29) ◆「志国高知 幕末維新博」の取組の中で、地域会場である安芸市立歴史民俗資料館のほか、五藤家邸、岩崎弥太郎生家等歴史関連施設の修繕等が実施され魅力が向上するとともに集客の増加につながった。	・体験プログラムの充実 ・市内での滞在時間の延長、観光消費額の拡大	◆岩崎弥太郎生家周辺や伊尾木洞の魅力向上(パワースポットとしての認知度向上)  ◆大山岬(恋人の聖地)と道の駅大山の魅力向上  ◆地域食材を活用した地域ブランド力の向上       ◆新たな体験プログラムの造成  ◆既存体験プログラムのブラッシュアップ

修正前



【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
21 岩崎弥太郎や地域食材等を活用した観光の推進 《安芸市》 ※地域産業クラスター関連(日本一のナス産地拡大プロジェクト)	既存の観光資源の磨き上げや、自然・歴史文化等の地域資源を活用した新たな体験プログラムの造成、地域食材を活用したメニューや商品の開発等により地域ブランド力及び観光客の満足度の向上を図り、交流人口の拡大及び観光関連産業の活性化に繋げる。	・安芸市 ・安芸市観光協会 ・漁協 ・伊尾木あなごう保存会 ・内原野陶芸館 ・JA高知県(安芸地区) ・安芸市観光ボランティアガイドの会 ・廊中ふるさと館 ・メリーガーデン ・はたやま亭 ・安芸「釜あげちりめん井」楽会 ・道の駅大山	アクションプランの取組開始:H21 ・土佐龍馬であい博での、こころざし社中開催(H22入場者、113千人、目標100千人) ・H23.3月、安芸観光情報センターの設置 ・岩崎弥太郎像の移転(H26) ・廊中ふるさと館の施設改修(H26) ・安芸観光情報センターの改修(H26) ・内原野陶芸館の改修(H26) ・安芸「釜あげちりめん井」楽会による、ちりめん井の市内外でのPR活動やちりめん井提供店舗拡大の取組(H22~) ・道の駅大山の改修(H29) ・伊尾木洞を核とした観光客の周遊及び満足度向上のための取組開始(H29) ・伊尾木洞にガイドが常駐できる観光案内所や多目的トイレ等を整備(H30) ・内原野陶芸館に小型電気窯を設置(H30) ・岩崎弥太郎の長男、久弥氏の縁で安芸市ほか県外3自治体からなる広域文化観光協議会を設立(H30) ◆「志国高知 幕末維新博」の取組の中で、地域会場である安芸市立歴史民俗資料館のほか、五藤家邸、岩崎弥太郎生家等歴史関連施設の修繕等が実施された。また、伊尾木洞や内原野陶芸館では「自然体験キャンペーン」も見据え、施設の充実など、魅力向上を図っている。	・体験プログラムの充実 ・市内での滞在時間の延長、観光消費額の拡大	◆岩崎弥太郎生家周辺や伊尾木洞の魅力向上(パワースポットとしての認知度向上)  ◆大山岬(恋人の聖地)と道の駅大山の魅力向上  ◆地域食材を活用した地域ブランド力の向上       ◆新たな体験プログラムの造成  ◆既存体験プログラムのブラッシュアップ

修正後

第3期計画					指標及び目標		
H28	H29	H30	H31	H32以降	指標	目標値(H31)	
岩崎弥太郎生家周辺や伊尾木洞の魅力向上(パワースポットとしての認知度向上)					→	市内年間観光客数 (H26:196,895人)	300,000人
パワースポットとしての認知度向上に向けた検討	観光案内施設及び周辺の整備 (星神社門扉、案内ガイド待機所、案内板、トイレ改修)			市内年間宿泊者数 (H22~26平均値: 22,721人)		25,000人	
大山岬(恋人の聖地)と道の駅大山の魅力向上					→	ちりめん井販売食数 (H26:40,846食)	50,000食
大山岬(恋人の聖地)の魅力発信(イベントの企画・開催)			大山岬周辺と道の駅の施設整備の検討・実施				
地域食材を活用した地域ブランド力の向上					→		
・ナス・ユズ・土佐ジロー・シラス・マンゴーなどの地域食材を活用したメニューや商品の開発・磨き上げ ・メニュー・商品の販売促進・PR活動(釜あげちりめん井、安芸まるごと井等)							
ナスの消費拡大に向けた取組(道の駅大山でのナス食材のメニュー化等)の検討・実施							
安芸産土佐ジローの認知度向上と消費拡大に向けた取組の検討・実施							
安芸産土佐ジローやナス等、地域食材のプロモーション動画による情報発信							
安芸産土佐ジローの加工処理施設の検討・整備等							
新たな体験プログラムの造成					→		
・シラス漁見学、果実(ユズ等)収穫体験等の新たな体験プログラムの造成(関係者等との体制構築) ・モニターツアーの実施							
既存体験プログラムのブラッシュアップ					→		
既存体験プログラムのブラッシュアップ							

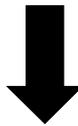


第3期計画					指標及び目標		
H28	H29	H30	H31	H32以降	指標	目標値(H31)	
岩崎弥太郎生家周辺や伊尾木洞の魅力向上(パワースポットとしての認知度向上)					→	市内年間観光客数 (H26:196,895人) ※うち、 安芸市立歴史民俗資料館 3,651人	300,000人 安芸市立歴史民俗資料館 7,000人
パワースポットとしての認知度向上に向けた検討	観光案内施設及び周辺の整備 (案内ガイド待機所、案内板、トイレ改修、 安芸観光情報センターリニューアル等)			岩崎家をゆかりとする自治体、企業との連携・交流の推進		市内年間宿泊者数 (H22~26平均値: 22,721人)	25,000人
大山岬(恋人の聖地)と道の駅大山の魅力向上					→	ちりめん井販売食数 (H26:40,846食)	50,000食
大山岬(恋人の聖地)の魅力発信(イベントの企画・開催)			大山岬周辺と道の駅の施設整備の検討・実施				
地域食材を活用した地域ブランド力の向上					→		
・ナス・ユズ・土佐ジロー・シラス・マンゴーなどの地域食材を活用したメニューや商品の開発・磨き上げ ・メニュー・商品の販売促進・PR活動(釜あげちりめん井、安芸まるごと井等)							
ナスの消費拡大に向けた取組(道の駅大山でのナス食材のメニュー化等)の検討・実施							
安芸産土佐ジローの認知度向上と消費拡大に向けた取組の検討・実施							
安芸産土佐ジローやナス等、地域食材のプロモーション動画による情報発信							
安芸産土佐ジローの加工処理施設の検討・整備等							
新たな体験プログラムの造成					→		
・シラス漁見学、果実(ユズ等)収穫体験等の新たな体験プログラムの造成(関係者等との体制構築) ・モニターツアーの実施							
既存体験プログラムのブラッシュアップ					→		
既存体験プログラムのブラッシュアップ							

# 修正項目(案)

## 【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
23 東洋町における体験型・滞在型観光の推進 《東洋町》  修正前	サーフィンやダイビングなどを中心としたマリンスポーツ等の体験を目的とした修学旅行や企業研修、サークル活動の受入施設を整備するとともに、新たな体験プログラムの開発を行うことにより交流人口の拡大を図る。	・東洋町 ・地元マリンスポーツ関係事業者 ・宿泊事業者 ・東洋町観光振興協会	アクションプランの取組開始:H25 ・高知県観光拠点整備事業費補助金を活用し、白浜キャンプ場炊事場を整備(H26) ・地域おこし協力隊(観光)1人着任(H26) ◆整備対象施設の現況調査により、課題が明確化され、今後の取組の方針決定につながった。 ・体験プログラムの開発(H26～) ・こけら祭りの開催(H26～) ・産振アドバイザー制度の活用(東洋町観光振興協会の課題整理と人材育成など:3回) ・こうちカメラ女子旅in東洋町モニターツアーの実施(1回) ・教育旅行の受入(H28:1回,H29:4回) ・観光アプリの提供開始(H28) ・産振アドバイザー制度の活用(H29、地域資源の活用) ・女子旅モニターツアー「美・trip TOYO 2017」の実施(H29)	・地域資源を活かした体験プログラムの開発 ・地元事業者(サーフショップ等)との協調 ・受入施設の整備	◆海の駅を拠点とした体験観光プログラムの開発  ◆東洋町観光振興協会の体制強化  ◆誘客の促進  ◆サーフィン客の拡大に向けた受入体制の強化



## 【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
22 東洋町における体験型・滞在型観光の推進 《東洋町》  修正後	サーフィンやダイビングなどを中心としたマリンスポーツ等の体験を目的とした修学旅行や企業研修、サークル活動の受入施設を整備するとともに、新たな体験プログラムの開発を行うことにより交流人口の拡大を図る。	・東洋町 ・地元マリンスポーツ関係事業者 ・宿泊事業者 ・東洋町観光振興協会	アクションプランの取組開始:H25 ・高知県観光拠点整備事業費補助金を活用し、白浜キャンプ場炊事場を整備(H26) ・地域おこし協力隊(観光)1人着任(H26) ◆整備対象施設の現況調査により、課題が明確化され、今後の取組の方針決定につながった。 ・体験プログラムの開発(H26～) ・こけら祭りの開催(H26～) ・産振アドバイザー制度の活用(東洋町観光振興協会の課題整理と人材育成など:3回) ・こうちカメラ女子旅in東洋町モニターツアーの実施(1回) ・教育旅行の受入(H28:1回,H29:4回) ・観光アプリの提供開始(H28) ・産振アドバイザー制度の活用(H29、地域資源の活用) ・女子旅モニターツアー「美・trip TOYO 2017」の実施(H29) ・阪急交通社と連携した「夏休み親子体験ツアー」「美・trip TOYO 2018」の実施(H30) ・マリンフェスティバルの実施(H30)	・地域資源を活かした体験プログラムの開発 ・地元事業者(サーフショップ等)との協調 ・受入施設の整備	◆海の駅を拠点とした体験観光プログラムの開発  ◆東洋町観光振興協会の体制強化  ◆誘客の促進  ◆サーフィン客の拡大に向けた受入体制の強化

第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
					体験者数 (H27:0人)	5,000人	
海の駅を拠点とした体験観光プログラムの開発 海の駅の観光案内窓口の強化 体験プログラムの磨き上げと開発およびガイド育成							
							
東洋町観光振興協会の体制強化 法人化と事務局体制強化 人材育成							
							
誘客の促進 農林漁家民泊の推進 魅力的な観光地域づくり、観光情報の発信・プロモーション							
							
サーフィン客の拡大に向けた受入体制の強化 アンケート調査 整備内容の検討 施設と備品の整備							



第3期計画					H32以降	指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	指標		目標値(H31)	
					体験者数 (H27:0人)	5,000人	
海の駅を拠点とした体験観光プログラムの開発 海の駅の観光案内窓口の強化 体験プログラムの磨き上げと開発およびガイド育成							
							
東洋町観光振興協会の体制強化 法人化と事務局体制強化 人材育成							
							
誘客の促進 農林漁家民泊の推進 魅力的な観光地域づくり、観光情報の発信・プロモーション							
							
サーフィン客の拡大に向けた受入体制の強化 アンケート調査 整備内容の検討 施設と備品の整備							

修正項目(案)

【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
30 馬路村魚梁瀬地区の活性化プロジェクト 《馬路村》	馬路村魚梁瀬地区の資源と人材を有機的に結合させ、交流人口の拡大と新ビジネスの創出を目標とした事業を展開する。	・馬路村 ・魚梁瀬地区住民団体(自治会)	アクションプランの取組開始:H26 ・魚梁瀬ふるさと応援隊2人の採用(H26) ・ふるさと応援隊による魚梁瀬バスポート、雑祭りなど交流人口の拡大に向けた活動の開始(H26) ・農業振興センター、森林技術センターと連携した地域資源調査の開始(H28) ・産業振興アドバイザー制度の活用(H29、馬路村の観光振興)  ◆ふるさと応援隊による交流人口の拡大に向けた取組や魚梁瀬50年記念イベントの開催を通じて、地域住民の参加意識が醸成されつつある。	・住民組織の活性化  ・ふるさと応援隊による地域の巻き込み、住民との連携(リーダー・担い手の確保、育成)  ・新たな外部人材の導入による体制の強化	◆外部人材の導入と住民組織づくり             ◆地域資源を活用した産業おこし             ◆魚梁瀬小中学校山村留学制度の拡充、強化
修正前					



【安芸地域】

項目	事業の概要	事業主体	これまでの取組と成果	課題	主な内容
30 馬路村魚梁瀬地区の活性化プロジェクト 《馬路村》	馬路村魚梁瀬地区の資源と人材を有機的に結合させ、交流人口の拡大と新ビジネスの創出を目標とした事業を展開する。	・馬路村 ・魚梁瀬地区住民団体(自治会)	アクションプランの取組開始:H26 ・魚梁瀬ふるさと応援隊2人の採用(H26) ・ふるさと応援隊による魚梁瀬バスポート、雑祭りなど交流人口の拡大に向けた活動の開始(H26) ・農業振興センター、森林技術センターと連携した地域資源調査の開始(H28) ・産業振興アドバイザー制度の活用(H29、馬路村の観光振興) ・集落活動センター推進アドバイザー制度の活用(H30) ・集落活動センターの設立(H30)  ◆集落活動センター設立に向けた議論を重ねることにより、人口減少など将来への危機感を住民全体で共有し、集落活動センターによる新ビジネスの創出、定住人口の拡大に取り組むこととなった。	・住民組織の活性化  ・ふるさと応援隊による地域の巻き込み、住民との連携(リーダー・担い手の確保、育成)  ・新たな外部人材の導入による体制の強化  ・集落活動センターによる観光や新規事業の展開	◆外部人材の導入と住民組織づくり             ◆地域資源を活用した産業おこし             ◆魚梁瀬小中学校山村留学制度の拡充、強化
修正後					

第3期計画					指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	H32以降	指標	目標値(H31)
外部人材の導入と住民組織づくり					丸山公園魚梁瀬森林 鉄道利用者数 (H24~26平均値: 1,523人)	1,830人以上
高知ふるさと応援隊の追加導入						
高知ふるさと応援隊による地域活性化、観光振興、生活支援等の活動						
応援隊と住民による 地区活性化に向けた定期的な話し合い						
地域活性化に向けた地域住民、小中学校、村役場協働の組織づくりとその運営						
土佐MBA等を活用した、新たな人材の発掘と育成					山村留学による魚梁 瀬地区への転入 (H26:4組)	5組 (H28~31累計)
地域資源を活用した産業おこし						
魚梁瀬50年記念行事を契機とした地域活性化の取組						
観光資源の磨き上げと新たな素材発掘						
農業・林産等の資源の 有効活用に向けた検討 (資源のリストアップ)	・事業化検討(人材の確保・育成、視察研修) ・事業の試行による課題抽出・改善		事業計画策定	事業の本格実施		
魚梁瀬小中学校山村留学制度の拡充、強化					丸山公園魚梁瀬森林 鉄道利用者数 (H24~26平均値: 1,523人)	1,830人以上
山村留学の多様な受け入れ方法等の検討及び情報発信			学校・地域と連携した山村留学の実施・移住促進			



第3期計画					指標及び目標	
H28	H29	H30	H31	H32以降	指標	目標値(H31)
外部人材の導入と住民組織づくり					丸山公園魚梁瀬森林 鉄道利用者数 (H24~26平均値: 1,523人)	1,830人以上
高知ふるさと応援隊の追加導入						
高知ふるさと応援隊による地域活性化、観光振興、生活支援等の活動						
応援隊と住民による 地区活性化に向けた定期的な話し合い						
住民の組織づくり			集落活動センターによる活動の展開			
土佐MBA等を活用した、新たな人材の発掘と育成					山村留学による魚梁 瀬地区への転入 (H26:4組)	5組 (H28~31累計)
地域資源を活用した産業おこし						
魚梁瀬50年記念行事を契機とした地域活性化の取組						
観光資源の磨き上げと新たな素材発掘						
農業・林産等の資源の 有効活用に向けた検討 (資源のリストアップ)	・事業化検討(人材の確保・育成、視察研修) ・事業の試行による課題抽出・改善		事業計画策定	事業の本格実施		
魚梁瀬小中学校山村留学制度の拡充、強化					丸山公園魚梁瀬森林 鉄道利用者数 (H24~26平均値: 1,523人)	1,830人以上
山村留学の多様な受け入れ方法等の検討及び情報発信			学校・地域と連携した山村留学の実施・移住促進			